



つつみ まさき 堤 雅基さん

参加した観測隊

- ・夏 隊：第49次・50次
- ・越冬隊：第40次・52次・60次
(第60次隊は2018年11月に出発予定)

プロフィール

香川県生まれ。
京都大学博士課程修了。
(現 国立極地研究所長・中村卓司教授の
学生第1号でした)
専門は大気物理学。

隊長はどんなお仕事をするのですか？どうしたら隊長になれますか？

隊長は、隊全体の「調整役」をすることが一番の仕事です。とても忙しいのですが、ある意味では心に余裕があると言いますか…。隊員として行く時とは気持ちの持ち方が全然ちがうのです。何より、隊の皆が好きなように仕事ができたら一番良いと思っています。

通常、隊長は観測隊の経験が何回かある人の中から、選考委員会で決められます。南極の経験があり、皆のサポートが好きであることが、隊長になる条件なのかもしれません。

南極で印象に残っていることはなんですか？

ペンギン、アザラシ、冰山…美しい南極の景色を観測船から眺めた後、ヘリコプターで昭和基地へむかいました。上空から昭和基地を見た瞬間、茶色い地面にクレーン車、建設途中の建物…まるで工事現場のような景色に衝撃を受けました。今でもその時の映像が強烈に印象に残っています。



【昭和基地にて。後ろに見えるのは観測船しらせ】

第60次隊はどんなことをするのですか？

日本は南極で、3,035m、およそ72万年前のアイスコア掘削に成功しています。今回はさらに深く氷床コアを掘削できる場所を探します。その現場調査は第59次隊から2年をかけて進められていて、第60次隊でその場所を決定することになります。また、次の第61次隊で本格始動する基本観測棟の中身を仕上げます。このように、前の隊から引き継ぎ仕上げるもの、次の隊のための準備、そして初期の観測隊からずっと続けられている観測をします。

子どもたちへのメッセージをおねがいします！

南極への行き方は色々あります。観測隊には通信、調理、気象、医師など、様々な職業の人がいます。皆さんも、まず何か「得意なこと」を見つけてください。そして、その得意なことを生かして是非、南極に来て活躍してください。